

中沢かつゆき 通信

自民党鎌倉市会議員

<http://www.nakazawa.jimusho.jp>



自民党鎌倉市連合支部青年局長

市政に関するご要望、皆さまの声をお聞かせください！

災害に強い街づくり

東日本大震災から半年、信越地震、新潟・福島大洪水、そして台風12号では紀伊半島をはじめとする地域に多くの被害を出しました。被災地にできる限り足を運び、自分で何ができるかを考えて、また被災地に伺っています。被災地では、ようやく瓦礫が撤去されただけの状況です。復旧はまだです。しかし、確実に時間は過ぎていきます。3月、4月に被災地に伺った時は物資を届けさせていただきましたが、今では被災された子供たちの心のケアを何とかしたいと考えています。ようやく子供たちの笑顔に出会うことができるようになりました。まだまだ復興までは遠い道のりですが、少しのことを長く続けていくことが大切だと思っています。

鎌倉では、初議会以来取り組んでいる防災にこれからも取り組んでいきます。まずは災害に強い街・鎌倉を作ることです。それには「減災」を進めなくてはなりません。市民の皆さんの災害に対する備えはもちろん、行政も積極的に災害対策を行っていかなくてはなりません。東日本大震災直後から進めてきた電柱への海拔表示、津波避難経路、高台平地整備、各学校でのマニュアル整備、民間施設を避難所指定、帰宅困難者対策などまだまだやらなくてはならないことがたくさんあります。地域ごとの課題をお伺いし、鎌倉市の防災対策施策に生かしていきたいと思っています。

被災地の子供の笑顔



東日本大震災で多くの子供が犠牲となりました。3月に避難所に伺った時の子供たちのこわばった顔が忘れられません。子供たちのために何かできることはないだろうか、ということを考え米大リーグ組合の日本代理人の方と、子供たちにメッセージを届けようとお願ひしました。8月16日、宮城県内の少年・少女野球チーム約300チームが参加する「宮城県スポーツ少年団軟式野球交流試合」のパンフレットにメッセージを載せていただき、開会式にご招待いただきました。友達が犠牲となり、監督やコーチが犠牲となったチームは、遺影を掲げて行進していました。でも、流されたユニフォームの代わりに新しいユニフォームを用意して入場行進している子供たちは、にこやかな笑顔でした。夢は掴むもの。子供たちの夢のために、できることをしていこうと思います。

9月議会

3月11日発生した東日本大震災、翌日発生した信越地震。そして新潟・福島大洪水、台風12号では紀伊半島を中心として大きな被害を出しました。改めて防災の重要性を痛感します。特に、3月11日鎌倉市でも子供たちへの対応が教育委員会と各学校との連絡がうまくいかず、混乱しました。学童保育や保育園を所管するこどもらい部では5月30日にマニュアルを作成し、学童保育では引き渡しとし、保護者と連絡が取れない限り学童にとどめ置きとします。さらに、学童への下校中に地震が発生した場合、学童指導員が安否確認を行います。保育園では、自宅が被災していることも考えられるので、その場合は保育園に待機も可能となります。小学校では、震度5強以上の避難所開設となる地震の時は引き取り下校となります。それ以下の地震であっても被害状況等を勘案し、保護者と連絡を取り引き取り下校となりました。中学校では、保護者と連絡がついたときには集団下校となりますが、引き取り下校となります。自宅への下校確認は引率の先生が行います。7月に教育委員会がマニュアルを作成し、それに基づき各学校でマニュアルを整備しています。海沿いの小中学校では、津波の時の2次避難所を決め7月中旬に避難訓練を行っています。各学校の地理的要因があり、災害時のマニュアルはそれぞれの学校で整備していくことが重要です。初議会以来取り組んでいる防災。これからも、鎌倉市の防災を整備していくために質問をしていきたいと思えます。

鎌倉市で頑張っている子供たちの環境について。鎌倉市では多くの子供たちがスポーツで頑張っています。しかし、その施設環境はとても充実しているとは言えません。スポーツで頑張った結果を出している多くの鎌倉の子供たち。次代の鎌倉を担う子供たちのために、環境整備を行っていかなくてはと思います。

市長、「砂押川歩道整備前倒しを検討」

平成21年鎌倉市議選の時、公約の一つとしてお約束させていただきました、「砂押川歩道整備」。2月議会で質問をし、国と県と打ち合わせを進め、実現に向けて動き始めました。来年度からの後期実施計画に向けて、現在担当部局で事業の策定を行っています。砂押川歩道整備は、重点施策として位置づけ、基本計画では24年度測量、25年度実施設計、26年度着工となっています。しかし、国と県との話の中で、実施については問題がないと、回答を得ていますので、早期着工を9月議会で市長に質問しました。市長からは、「前倒しをして着工できるよう努力していきたい」との答弁を得ました。今までは、「実施計画に基づき」着々と進めるという回答でしたから、一歩踏み込んだ答弁を得ることができました。今後は、担当課と積極的に調整をし、一日も早い着工に向けて進めていきたいと思えます。まずは、早期測量を実現していきます。

中沢かつゆきの経歴

経歴：昭和41年6月生

群馬県立渋川高等学校卒業
東京電機大学理工学部情報科学科卒
スパライズ株式会社代表取締役
大阪観光大学観光学研究所
客員研究員
鎌倉中央ロータリークラブ理事
材木座保育園保護者会会長
にかいどう子どもの家父母会会長
鎌倉市テコンドー協会顧問
県議会議員中村省司秘書
著書「安全な温泉・あぶない温泉」
(草思社刊)

二階堂在住

事務局：Tel 0467-61-0305

Fax 0467-61-0315

ほっと、一息：日頃の疲れを、温泉で癒してみませんか？



* 中沢かつゆきは温泉コンサルタントでもあります *

十津川温泉：奈良県最南部、和歌山県との県境に日本一大きな村・十津川村があります。羽田から1時間の白浜空港からは車で1時間半ほど。五條からは八瀬のつり橋を通過して、2時間半。日本一長い路線バスで行く山間の秘境ともいべき地に、十津川温泉があります。温泉に様々な問題が出た時、「源泉かけ流し宣言」を行った温泉としても有名です。泉質はナトリウム-炭酸水素泉。泉温は70℃。適応症は切り傷など。湯船までは、源泉を自然降温しています。炭酸水素を含んだ温泉は、湯冷めしない温泉です。ゆっくり浸かると体の芯から温めてくれます。また皮膚病などにもいいようです。アクセスが決していいわけではありませんが、そこが秘湯たる所以。時間を忘れてのんびり過ごす温泉です。台風12号で大きな被害をだし、未だ復旧途中で温泉施設もほとんど営業していません。しかし、一日も早い温泉の復旧に向けて全国から応援の方が入っています。もうすぐ復旧。ぜひ復旧なった十津川温泉に足を運んでいただきたいと思えます。

<http://totsukawa.info/>